

区内公園の樹木における「ナラ枯れ」の発生について

令和2年7月から9月にかけて、公園樹木（主にコナラ）が枯れている状況が発見され、樹木医の確認によって、「カシノナガキクイムシ」が媒介する病原菌による「ナラ枯れ」であることが分かった。

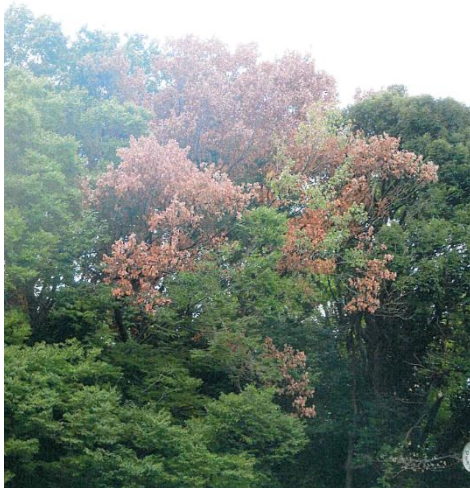
(1) ナラ枯れとは？

「ブナ科樹木萎凋（いちょう）病」の通称であり、樹木を枯らすナラ枯れ菌とそれを媒介する昆虫とによる「樹木の伝染病」のこと。1980年以降、日本海側を中心に被害が拡大してきたが、近年では太平洋側でも被害が広がっている。

媒介昆虫：カシノナガキクイムシ（以下、「カシナガ」という）

在来種で、成虫の体長は約5mm

対象樹種：コナラ、ミズナラ、クヌギ、シラカシ、スダジイ、マテバシイ等



コナラの枯損状況（本門寺公園）

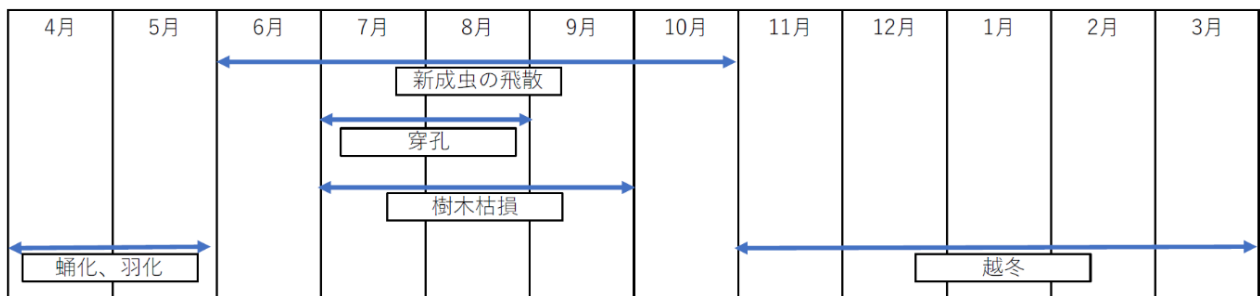


カシナガの個体写真

出典：ナラ枯れ被害対策の取組について
（公財）東京都公園協会

(2) ナラ枯れの仕組み

夏の間にかシナガ成虫が樹木の幹に孔をあけて産卵する際、カシナガの体に付着したナラ枯れ菌が樹木に感染する。ナラ枯れ菌の作用により幹の通水機能が失われ、葉の色が急速に赤褐色に変わり枯死に至る。幹の中で成長した幼虫が羽化すると、新成虫が翌年の夏にナラ菌を持って飛散し、新たな樹木に穿孔するというサイクルを繰り返す。

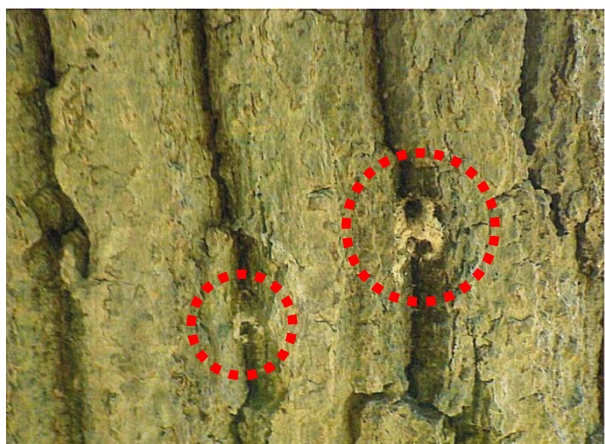


カシナガ生活サイクル

出典：ナラ枯れ被害対策の取組について （公財）東京都公園協会

(3) 現在のナラ枯れ被害状況

本門寺公園 6 本、池上梅園 2 本、大森東一丁目第一公園 4 本
多摩川台公園 20 本、宝来公園 5 本、萩中公園 1 本



被害状況（穿孔の径は約 2 mm）



穿孔に伴って排出されるフラス（木くず）

(4) 都内の被害状況

東京都では、2010 年に島しょ部（三宅島、御蔵島、八丈島）で被害が確認された後、内地での被害は確認されていなかったが、2019 年に入って都立公園にナラ枯れの症状が確認された。調布市、小平市、八王子市、東村山市、武蔵村山市などの多摩部から、世田谷区、練馬区、渋谷区、新宿区など区部西部に被害が確認されている。

(5) 今後の対応について

健全木への被害拡大を防ぐため、被害数の把握を確実にを行い、枯損木を確実に処理する必要がある。そのため、樹冠部や樹勢の変化を目視確認し、枯損木等の見落としがないよう日常の管理を行っていく。当面は、以下のスケジュールで対策を実施する予定。

令和 2 年 9 月～10 月 区内公園樹木の被害状況確認

令和 3 年 3 月末まで 枯損木の伐採、処分（翌夏の成虫の飛散を防ぐため）